

【開催概要】

日 時： 平成24年12月17日（月）午後7：00～午後9：00

会 場： 西出張所分庁舎2階 会議室

出席者： (仮称)内野地区集会施設検討委員会 委員

岡本委員、青柳委員、渡辺委員、元木委員、大川委員、横山委員
事務局

市川西区地域課長、小林西区地域課長補佐、西区地域課職員、
石塚西出張所長、長谷川西出張所副所長、西出張所職員

【会議内容】

1 開会

2 議事

(岡本会長)

それでは、これから、議事に入りたいと思います。まず、第4回の中央区のクロスパル、東区プラザ、石山地区センターの視察にご苦労さまでした。これで11月10日に見附の「ネーブルみつけ」、これは市民センターを中心とした機能のものの見学と、黒埼市民会館の視察をしまして、大体見たいというところを見せていただいたわけですが、建物、集会所やホールは、生涯学習センターでホール、音楽室、調理室、あるいは更衣室、大小の会議室等、見ることができまして、いわゆる地域における集会所、あるいはホールの実態というものを私どもは理解をすることが、深めることができたという感じを私は持っていますが、そんなところから、今日は少し話を前に進めまして、次第の中にもございますが、「ホールの内容について」、議論をしていきたいと思っております。

そこで、今回5回目なんですけれども、ここの場における机上は今日で3回目ですか、3回目をやりまして、1回目は10月15日に、2回目が11月26日で、さまざまな議論を交わしてきたわけですが、その2回の議論をいま一度再確認というような意味で、私から何点かについてちょっと話をしてみたいと思います。

1つは、先般、11月26日、区役所から、現在の西出張所、それからこの分庁舎は解体の方向で今後検討をするということ、それから、西地区公民館も、これは補強をするという考え方で進んでいくだろうというのが、行政側から示されました。

2つ目には、西出張所とこの分館の保健センターが、解体をすれば、行き場所というものが出てくるわけですが、その2つの機能は、集会所がどんな形でできるか分かりませんが、できた場合には、そこに合築としての方向に向かうというのが十分考えられるということも、行政側の今時点での考え方として示されているわけでございます。

3つ目には、西出張所とこの分庁舎を解体する、特にここにある保健センター、これを合築をする場合には、立地条件が非常に問題、重要な位置づけになってくる。どこに建てるかですね。ホールそのものだけの、集会所そのものができるのであれば、おおよその議論をして、こういうものを造りましょうというのが意思統一、意見としてできるんですが、行政施設として合築すると、どこにという場所が非常にウエートを占めてくるということで、それは行政側の考えがきちんとまだ定まっていないから、その合築を考えながら前に進めるということは、立地条件的には非常に難しいので、それはこっちへ置いて、私どものこの地域で要望している集会所を、どんな形のものを、あるいはどんな大きさのものを、みんなで協議して結論を出していこうというのが、この前からの議論で出てきているわけで、ましてや行政側からも、大きさ、それから、我々が見てきたそういう種類のものを、この場でもってどんなものかというのを、なるべく結論を詰めていただきたいというのが1つ。それはホールを中心としたものですね。

それから、そこにいろんな多機能の音楽室であるとか、講習室であるとか、大小会議室であるとか、調理室であるとかというものが欲しければ、そういったものをどんな形で付加していくかというのをその次にという、こんな形で今まで推移をされてきたと思うんですが、今日はその1点目の「ホールの内容について」、もうそろそろ皆さんの意見を出し合って、大体各地域のホールだとか集会施設を見学してきたので、大体の地域のイメージが湧いてこられたと思うので、ホールの大きさだとか、どういうものが欲しい、これはいいものに、本当のものすごく立派なものが欲しいというのはみんなそうなんだけど、いずれにせよ各地域に向いて見てきて、イメージが湧いたので、この地域にどんなホールが欲しいかという点について、第1番目にちょっと議論をさせていただいて、結論づけていただきたいというふうに思うんです。

その次に、このホールが大体どんなホールだと。黒崎市民会館、東区プラザ、あるいは中央区のクロスパルのホールだとか、それぞれ若干違いますから、あれ（クロスパルのホール）は舞台がほとんどなかったようなところがありますが、あるいはそんなの全然要らないとか。西コミセンのような体育的な、体操をするホールで、あるいは水平にして、自由に何でも使えるのがいいとか、いろいろな意見があるかと思うんですが、今日はどういうイメージのホールが欲しいか、必要であるか。それから、この地域のまちづくりのために、これからどん

なものを設置して、そして進んでいったらいいかという観点も含めて、ホールにまず絞って議論をして、それはそれとして方向づけをしていきたいと思っています。また行政側からも早めにホールの在り方、大きさ、形状、機能、可動式がいいのか、固定式がいいのか、あるいは体育館式がいいのか、さまざまありますので、あるいは座席、収容人員が200がいいのか、300がいいのか、100でいいのか、150でいいのかというのもさまざまあると思いますので、その辺も含めてちょっと議論していただきたいと思いますが、どうですか。

(横山委員)

私は、いろいろ見た中で、さほど大き過ぎず、100席から150席作れるような、可動席のホール、フラットにもできて、講演や演奏以外にも使えるものがあるといいなという感じがしています。

(岡本会長)

舞台装置付きの、黒埼か東区のホール式のものね。そうすると、200だったかね。

(事務局：小林地域課長補佐)

東区は200の可動席と、あと80の椅子席です。

(岡本会長)

という感じね。皆さんから全部意見聞きます。

(大川委員)

私もそのぐらいの大きさですね。でも、私はクロスパルの2階ぐらいでも…。お金が掛かると大変かなとか。設備を、スポットライトだとか、あの辺りがどんなものかなと、まだちょっと悩んでいます。クロスパルぐらいの、ああいう舞台ぐらいでもいいのかなという、その辺りを今、大きさは、もちろん可動式で、何かのときに。

(元木委員)

私、この会自体が、集会施設ということで応募したんですけど、いきなりホールということになって、この集会施設というイメージとホールというイメージが、申し訳ないですけど全然合わなくて、今までちょっと違和感があったんですけど、皆さんもうホールというと、やっぱり音楽ホールというか、そういうイメージがあるんですけど、そのように、この委員会で決まったという記憶はないと思うんですよね。コミ協が出した資料を見ると、主な希望施設として、「市民集会大ホール、生涯学習ホール、文化学習ホール、まちづくりセンター、その他」とあるので、パッとそこでホールというところから話が始まることに、まず違和感を感じています。

2つ目に、私のイメージとしては、いろんな施設を見てきて、すごく勉強になったんですけども、あの施設ができたのと、私たちが今から造ろうというのとでは、何が違うかとい

うと、やっぱり東日本大震災があったということは、すごく意識としてやっぱり違うと思うんです。私も違うし、多分内野に住んでいる皆さんの意識も違ってくると、必然的に思いますし、やっぱり災害、私もいろいろ調べたんですけど、防災避難拠点施設という言葉があって、災害時に災害対策本部が持てるだとか、救援隊のベースキャンプになり得るとか、災害医療の拠点になるとか、物資の分配の拠点になるとか、地域住民の避難場所になるとか、そういう観点をせっかく造るのであれば、入れないと、ただ音楽聞いて、いいホールですというのに何億円も掛けて、それでは市民として完全な、今この時代性がこうなっている中で、コンセンサスが得られるとは、私は全く思えないので、そういう災害避難拠点的なものに使える、ホールといったら音楽ホールみたいですけども、席は可動式で、何かのときにはここでいろんなことに使える、こういうことにも使える、こういうことにも使えるという機能を備えたものが、この会に出た最初から思っていましたので、言わせていただきました。

(岡本会長)

ありがとうございました。

要望書の中の大集会所というのがあるかと思うんですが、舞台が付いているとか、付かないとか、可動式だとかいうのは抜きにして、今、元木さんが言われたようなものをイメージして出したんですが、せっかく造るのであれば、そこにホール、ちょっとした舞台でいいから、立派なものでなくて、音楽の演奏もできる、しかも大学が、ここは情報大学も、新潟大学もさまざまなものを作って、全部新潟の大きいホールへ行って、新大の生徒たちがあそこ行って発表会なんかやっているのだから、この内野の町となじめないものだから、いろんな議論の中でそういうのが出てくれば、恐らく舞台装置の軽い、そんな立派なものでなくて、防音装置のある程度できたものがあって、そうすれば新大生も、それから日本文理高校の生徒も発表できて、地域も行ってというのもイメージをして、議論していったほうがいいのではないかとということで、最初のときは、今、元木さんが言われたような、舞台まで付いて、防音装置付きで、照明付きでなんていうところまでいってなかった。各箇所を見てくると、その舞台の付いたものが、また可動式で椅子を取っ払えば、多面的に多機能的にできるという利便性があれば、今言われたものが全部 100%実施しなくても、言われた意見のようなものができれば、それはまたそれにこしたことがないんじゃないかという一つの意見であって、最初は元木さんが言ったようなイメージでお願いをしていた。

(元木委員)

それは私も思います。どうせならいろんなことに、災害というのは毎年起こるわけではないので、やっぱり通常時にもいろいろ使えるという観点も、もちろん大事だと思う。

(岡本会長)

ということです。青柳さん、どうぞ。

(青柳委員)

やっぱりここか、他に造るかということになると、駐車場も取れないわけですから、クロスパルぐらいだろうなど。可動式と固定式のそれぞれいいところ、悪いところ、伺ったんです。どっちもいいので、どっちも。ただ、可動式ということで、取っ払ったからバスケットの試合ができるとか、そういうわけじゃないみたいなので、それだったらそれで、何にもないほうがやっぱりいいし、だから、ああいったイメージのホールということであれば、せいぜいクロスパルみたいなのがいいのかなとは思いました。

それと、クロスパル見せてもらって、あの体育館はいいですね。

(元木委員)

感動しましたね。

(大川委員)

あれは立派でしたね。

(渡辺委員)

あれだけでいい気がします。

(青柳委員)

はい。その後、もう1つは、東区のホールというか、「わいわいひろば」ってありましたね。子どもがバーッとこんな広い。ああいうのやっぱりいいですよ。

(岡本会長)

子ども、親子の居場所はどこか、あるいは講習室はどこか、調理室というのは、また後で。とにかく大きい集会所、多機能の大きい集会所はどんな位置づけのものがいいかと。

(青柳委員)

わかっています。わかっているであえて言ったのは、要はホールにこれだけ掛かると、それで子どもが遊ぶところは予算上カットだということであれば、それは要らないということです。僕のイメージは。だったら、ステージも要らないし、音響設備も要らないから、西コミセンのレベルで、なおかつ、「わいわいひろば」みたいなものを実現できるのであれば、元木さんがおっしゃったのもそうだけど、単純に広いところがあれば、それが重要かと。

(岡本会長)

ホールをまずやって、それからその他の多機能のものをどうやってくっつけていくかを、結論というか、いろんな形で要望してみて、それから、今後の進め方として、行政側から、皆さんの意見を聞いたら、こういう形のものがありましたというものを2つか3つ出してもらって。この種のものには議論できないんですよ。その中で、今、青柳委員が言った、いや、

ホールはきれいになったけれども、あとのものは駄目。予算があり、他との兼ね合いもあるし、予算上とっても皆さんの意見を全部集約したものはできないで、というふうに恐らく出てくると思うんです。この地域の居住人口から、私どもの町を外観から見ると、大体このようなものというのは行政が専門家からかはじいて、そのはじいたものを2、3、絵に描いて出してもらって、今、青柳委員が言う、ホールばかり立派になって、親子の居場所もないし、会議室もないし、何も体育するところもないから、そんなら全部はじいて、むしろ市だったら市の絵に描いたほうがいいということというような進め方でどうかと考えているんです。そういう意味で、まず、大集会所、ホールというと、やっぱり音楽ホールを思い出すので、大きな集会所、これをどんな形のどんな機能を持ったものを我々は欲しいと言っていくかという観点から、ちょっとやってもらいたい。

(渡辺委員)

元木さんが言った後に、集会所と言って、内野になくなった集会所は何かないと考えると、地区事務所の3階なんですよね。まずあそこが集会所っぽい機能があって、あそこでみんな会議をしたりとか、何かあったときに集まったりというのがあったんですけど、そこに下水道課が入ったことによってそこが使えなくなって、そこがまず一番の出発点なのかなというイメージがあったので、僕の中では、音楽ができるというのは、後付けとして残しておいてもいいと思うんですけど、何にしろまず大きな広い場所があって、そこを分割しようが、子どもを遊ばせようが、運動をしようが何でもできるというものがあるべきなんじゃないのかなと。

(元木委員)

私もそう思う。

(渡辺委員)

僕はそういうふうに感じて、クロスパルの運動場、これはすごいよねと思いながら見てました。こういうのがあればいいんじゃないのという、そんなイメージがあるんですけど。

(岡本会長)

わかりました。議論の進め方としてやっぱり場所と、場所の広さ、位置と広さ、これによっても随分左右されるんですよね。ですから、場所はまた一番最後に、じゃ、この種のものだったら駐車場も含めてどこがいいのかというような、場所の検討もここで議論してもらって、ある程度の方向づけというか、できるかできないかは別にして、要望をしていきたいと、意見集約して要望をしていきたいと思っているんですが、そんなことで、遠慮して、場所もないし、今のところ壊して造れなんか言っても、そんな大きいのはできないから、大体こうだろうなんていう発想も、これも一つの考え方であって、場所というものも取っ払って、そ

して、駐車場も100台ぐらい入るところ、どうせクロスパルの小さい、もうちょっと小型のものもできるというようなイメージを持っていかないと、あそこにもう、私どもの頭の中には今のところを解体して、今の出張所を、そうすると、限定されていくんだよな。

(渡辺委員)

そうですね。そのイメージ。

(岡本会長)

そのイメージ、その辺でそこもやっぱり頭に入れて取り組んでいかなければ駄目なんだけれども、あまり遠慮して今のところと限定しないで、もう少しという感じで議論をしていったらどうかという感じですが、行政のほうはそんな感じでよろしいですか。

(事務局：市川地域課長)

はい。

(岡本会長)

場所もあそこなんだという限定、あそこだったらもう決まってしまうので、ホールもできないし。

(横山委員)

もっと夢を。

(岡本会長)

もっと夢持って。

(青柳委員)

今、会長がおっしゃっていた、あれもおっしゃっていた部分ですけど、ホールからまず決めていくべきか、ある程度描いていくべきか…。

(岡本会長)

ホールというと、私の言い方も悪いんだけど、集会所。

(青柳委員)

集会所ですよ。

(岡本会長)

大きな集会所、そこにどういう機能を持ったものをつくるか。多目的に活動できる、使用できるものを、向かうというところから入っていったらいいのかな。

(青柳委員)

集まれるところ、ホールという言い方を変えていけば、老人ホームみたいのがいいなと思うんです。老人ホームの個人の寝てる部屋がないものみたいな。そうすると、談話室もあり、あるいは駐車場も取りながら、来る人が、家族が来ても車をとめられる、軽く運動する場所

もありという、あんなだと使いやすいと漠然と思っていたんですけども。

(岡本会長)

今のも非常にわかるんだけど、そういうのも大集会所をまず決めて、そこに市民ホールみたいなものを1階につくってくれと。それで、見附の「ネーブルみつけ」みたいな、ああいう機能の、あの広い素晴らしいのでなくて、市民がそつと来て、ちょっと話し合いできる、あるいは談話できる、そういったものを1階に付加してくれというのは、次のいろんな機能をそこにどう付けていくかのときに、議論。

とにかく大集会所をどういうものかというのをまず決めないと。集約するのに、実は今日また議論して、皆さんから全部私のイメージするものはこうですというものを出示してもらったほうがいい、たたき台がないとなかなか前に進まないものですから、そんな感じを持ったんだけど。

まずホールというイメージをこっちへ置いて、大集会所、大きな集会所が内野に、渡辺委員が言っておられたようにないんですよ、ほとんど。それから、公民館で椅子だけ並べれば120~130人はいるんだけど、そこはもう稼働率高く利用できないと。言われるように出張所の3階もないということで、コミュニティ協議会の会議室を取るのだから借りられない。それから、さまざまな催し物をやろうと思っても全くないんです。そして、全部もうはや年度初めには決まっている。定例の開催というのが、もう九十何団体あり、それが申し込みをするから、ほとんど空いているところがない。ここも貸してくれと言っても、なかなかという感じになっている。そういう中、内野の人たちが、本当に欲しいものはどんな形のものなんだろうと。

それから、何回も言うけど、学校があつて、学生との交流を図るものを。何だかんだ言えば、黒埼まで車で10分走れば、そこにあるじゃないかと。あるいは体育館的なものは西コミセンに行けばあるじゃないかと言って、そうすりゃあまり要らないんじゃないかという議論にも通じるので、この地域に本当にこれからのまちづくりを含めた中でどんなものか。だから、責任重いんですよ。それで、若い人たち、女性の人たちから、参加してもらったんだと思います。

従って、まず、母体、集会所になるものの大きさ、機能を決めてもらって、そこに今度は2番目にある、青柳さんが言う、自由に行って入る、それから個室もある、小さい5~6人で会議、打ち合わせできる、そういったものをどうやってくっつけていくかと。そこに、それが大体おおよそ流れが決まってくると、そこに今度私どもの範ちゅうでない、行政が西出張所もそこに入れるのか、合築の方向と言っているんだから、西出張所も入れる、それからこの保健センターも入れるというようなものを行政がどう考えて設計するか。だから、平

屋でなくて2階ならこうするし、3階ならこうするし、あるいは4階ならこうしようという
ようなイメージ図を、遠慮しないでこう…。これからのあなた方、俺なんてあとどれだけでも
ないし、どうやってこのまちをそういったのをフル回転して使いながらやっていくかという、
そういう観点から議論してみてもらえないですかね。

だから、最初からホールというから、ピアノ弾いたり、独唱やったり、なんてものばかり
イメージするからそうなるんで、大きい集会所、大体どういうものがあるかという観点で
決めてもらいたいと思うんですけど。

それには、防災のことも考えなければ駄目だろうし、さまざまなものを考えなければ駄目
だと。そうすると、ある程度大きくなってくると、それでは、駐車場はどこにあるのなんて
話に行きかねるんだけど、それはまずこっちへ置いてという感じで議論をして。

大体、クロスパルのような形、大きさで、機能を持った、可動式で、青柳委員が言われた、
あそこができるかわからないが、防音装置付きで、バスケットができる、卓球ができる、そ
ういうものが、金さえ出せばいくらでも何でもできるんだけど、できるのかどうかもち
よっとわかりませんが、私どもの検討委員会としては、この地域にそういったものがあつた
らいいと。この地域、今後のまちづくりにそのほうがいいという位置づけで、集約してい
くということだと思うんです。

東区プラザの200ぐらいの可動式で約10分で全部椅子がなくなる。あれはタイル張りだ
ったけれども、板張りにして、体育館としても使用できるという感じでも、私はいいと思
うんです。ただ、立派な音響効果って、バスケットのぶら下がるネットができるのかどうかと
いうのは、これはわかりません。一番いいのは、体育館もつくってくださいと。中央区のク
ロスパルと同じで、体育する施設とホールというか、それ2つが兼ねられれば一番いいん
だけれども、そこまで言うと、集会所を建設してくれというところから、少し外れる可能性
あるんですよ。

どんなものをお願い、この審議会でも議論の集約をしていくかと。

(大川委員)

私も会長のように、可動式で、やはりどけたら床、ボールやなんかでもできるもののほう
がいいと思いますし、それに防災を考えると、下にあるよりもなるべく上に。何かあつた
とき水が来ちゃわないように、上のほうにそういうのをつくっていただけると。

(岡本会長)

位置的にはね。

(大川委員)

1階とか2階だと、ここ、川がすぐそこにあるので、何かちょっと、浸かっちゃったとい

うとあれなので、とにかく避難場所にもなり得るように、上のほうにつくっていくと、集会所にもなるし、とりあえずちょっとしたスポーツもできるし、ちょっとした発表会、クロスパルぐらいのあんなちょっとした台があれば、発表会というか、ちょっとしたのもできるので。

(元木委員)

私も、このクロスパルはすごく参考になって、これ（パンフレット）を見ながら、これは中央のあれだから、内野だとどれ、これを参考に内野だとかこういうのがいいねというのを。すごい参考になると思うんですね。体育館みたいななのというのは、軽運動室というんですね。何平米とか出ているので、すごい参考になるので、これを見ながら、私たちならというので進めていくと、一番これがイメージに合いました。

(岡本会長)

いま一つ、集会所機能と、それから公民館活動機能というふうに2つ分けて、行政側は西地区公民館はそのまま補強して残しますと。だから、今の機能はそのまま保つんだという考え方みたいですから。

ただ、公民館活動は今までどおりあそこ（西地区公民館）で。クロスパルは公民館活動と集会所、その他と一体になった建物なんです。ですから、内野の場合はどうせ造るならそれは一緒にすればいいでないかという議論もあるかもしれませんが、周辺地域を考えたこの小さい地域において、2つも3つもという考え方もありますから、今の西地区公民館はそのまま補強して残すんだと。従って、私どもが考えるのは集会所と、プラス多機能のさまざまな会議室とか、講習室とかというものは必要かというのは、その次、2番目にやっていきたいと思うんですが。そうすると、クロスパルみたいなのか、それから東区プラザのようなものってなるのかな。

(青柳委員)

僕も今、話を聞いて、来たときとちょっと気持ち違うんですけど、今、話を聞いたら、学校の体育館の半分ぐらいの広さで、高さも半分ぐらいのもので、ステージもあって、音響はクロスパルみたいな裏側にある…。

(渡辺委員)

学校の体育館って、講演もできて、演奏会もできて、何でもできるんです。

(青柳委員)

餅つきもできるしね。

(渡辺委員)

餅つきもできる。はっきり言うと、ステージがあって、舞台があるという、それに限定されてしまう気がするんですよ。なので、限定しない使い方ができる建物、施設って何か。

やっぱり学校の体育館が一番すごく便利なんですよ。

(青柳委員)

僕もそう思う。

(岡本会長)

舞台も入れるということは…。

(渡辺委員)

ステージですよ。ステージがあれば、それで済むような気がするんですね。

(青柳委員)

それで、もっと音響がいいだの何だのと言ったら、それはまた別のものを使えばいいのかなというふうに、今お話聞いていて思ったんです。

(渡辺委員)

お金取るような人が来て、それで何かをするんだったら、ああいうものが必要なのかもしれないですけど。

(岡本会長)

いや、それは地域限定だろうね。

(渡辺委員)

そうですね。

(岡本会長)

交流やるというのはこっち置いて。

(渡辺委員)

そうですね。

(岡本会長)

住民活動を、町をどうしていくかという観点からのアプローチだと思いますね。

(渡辺委員)

大学生とか、高校生とか、小中学生がやるというのであれば、僕は、大それた音響設備があるよりも、逆にみんなが来れるような、親しみある場所のほうがいい気がしますし、元木委員が言われた防災の面も、絶対だっ広いほうが使い勝手がいいと思うんですよ。

(元木委員)

あるとき仕切れたらね。

(渡辺委員)

そう、仕切ればいいし。ここに来させていただいた最大の理由は広場がないんです、内野って。舞台がうんぬんじゃなくて、広い場所が欲しいというのがもともとの出発点なので。

(岡本会長)

要望書の出発点はそこなんです。

(渡辺委員)

そこですよ。

(岡本会長)

大きい集会所が欲しいんだと。ただ、あっちこっち見ていくと。

(渡辺委員)

目移りはしますよね。

(岡本会長)

ボタン1つ押せば、電気がザーッとなるし、ホールが付いてればホールも欲しくなるし、照明もこんなのかなという、だんだん欲が出て、じゃあ、どういう形かというところへ行ってしまうんですよ。

それと、何回も言うけど、学校、学生との交流の場というの、大きいウエート。実は、「うちの DE アート」、もう十何年も前から始まっているけれども、集会所がないんですよ、打ち合わせ場所も。それから、教育学部、あるいは芸術学部が、いろんな展示会だとか、まちと一緒に音楽会やったり、舞踊会やったり、何かしようと思っても、やる場所がなくて、もう全部カットになっている。それを学生は新大の中でやっているけれども、今度地域の人たちはあそこまで行かれないんですわ、内野の人は。でも、あっちがものすごいいいことも、ものすごいプログラムで、もう相当のことをやっているんだけど、内野の人たちはあそこまで出掛けていくことはほとんどない。従って、コミュニティ協議会は、大学で教室を借りて会議をいくらかやっているんです。大学で教室を借りてやると、コミュニティ協議会の委員の人も行かないそうです。どういうんだか、入っていないんですよ。また元へ戻るけども、出張所の3階がなくなって、大きな集会、100人以上は行って会議するところがなくなったと。従って、大きな集会所をまず欲しいと。それが多機能で、仕切りしていくらでもできる。あるいは全部取ったら200名ぐらい集まると、こういう発想から出たんですが、よそを見てくると、プラスもう少しステージ付けて、照明付けてという話にも、せっかくだからというふうになるんだけどね。

(渡辺委員)

大きなステージを作ってしまうと、楽屋があって、舞台裏が必要で、設備が必要ってなると、付帯スペースが必要になるわけじゃないですか。そこら辺も、今場所がないという議論から始まっている部分もあるのに、そこら辺は付属としては要らないのかなという気はするんですよ、個人的には。

(元木委員)

あと、広いところに老人ホームみたいな（ものが）建つイメージではなくて、やっぱり防災という、クロスパルみたいな、ああいうまちなかの狭いところでも上にとというのがやっぱり。上に上にと、三陸のときも流されたりして、4階建て、5階建てでも何かというのを聞くと、そんな広いところというよりは、狭くても、やっぱりクロスパルのイメージだと…。

(渡辺委員)

軽運動室もホールも全部2階にありましたからね。

(元木委員)

そう。とにかく上に上にとというのは、やっぱり津波が来て、新川がバーッとなったときに。

(渡辺委員)

西出張所って海拔 3.3 (m) でしたっけ？

(大川委員)

3.3 (m) って書いてあります。

(渡辺委員)

あそこから上へ建てれば、6 mの津波ぐらい耐えられるということなんですね。出ているのは6 mでしたよね。新潟、内野で確か。

(大川委員)

あれって変更にならない？ 入力が間違ってたとか。

(岡本会長)

津波は起きてみないとわからないけれども、防災はしっかり頭の中に入れて、ホールを造った場合、何階建てにしてもらうんだというのも議論をきっちりやってもらいたい。6月28日に県が発表した、日本海沿岸で6本の地帯があるんだけど、それが複合的に地震を起こした場合、5分で新川が一番早いんですよ、7 mの津波が来る。マグニチュード 7.1 から 7.8 ぐらいのものが来ると、5分で津波が来るっていうんですよ。20分後には内野の町は全部水浸しになるんです。それに内野の人たちは全く関心持たないわけですから。それから、20分後には今度関屋分水から入ってきて、ここは水浸しになるんですよ。それで今、西区も新潟市もそれに対応し得る災害対策をどうしていくか、避難対応をどうするかというものをやっているんです。余談になるけれども、平成 26 年まで保育園の合併計画というのがあるんです。内野の保育園、五十嵐保育園、これ合併をしないと。造るところは、聞いているとそこ（内野駅の側）なんですよ。それは勘弁してくれと。コミュニティで協議して、山の上に造ってくださいと。山の上に造れば、水の心配はないわけですから。今、みんな自動車だから、子どもの送り迎えは。という要望書を今年、出したんです。従って、そこに新

川があるという地形上と、海拔2～3mしかないというのを、防災をきっちりと頭の中に入れて造っていただきたいというのは基本だと思いますね。

従って、小林補佐（事務局）、聞いていて、意見の集約って大体感じはわかりましたか。要するに200～300人の集まる集会所が欲しいと。そこに装置が、ステージが付いて、十分に使えるという感覚で、災害時にも使われる感覚の集会所でいいという感じなんですよ、集約すると。そこにステージが付いていればいいし、照明も付いていればいいし、ということなんだろうと思う。音響効果までというプロになってしまうから、なるべく音響効果的に近いようなものもあればいいと、こういう感じなんだろうな。

（青柳委員）

やっぱり体育館がいいと思うな。小学校の。

（渡辺委員）

それはそうだと思うんです。

（青柳委員）

今、一番新しいのは荻川小学校ですよ。行ったことないんですけど、それだと最新なんでしょうね、きっと。

（事務局：市川地域課長）

わからない。

（青柳委員）

ああいうのだったら、安いんじゃないかな。

（渡辺委員）

体育館のスペースに音響とか照明を入れると、広すぎて逆にイメージに合わないですよ。

（青柳委員）

体育館全館は無理でしょう。体育館の半分ぐらい、高さも幅も半分ぐらい。ステージも半分ぐらい。それだったら何にでも使える。

（事務局：小林地域課長補佐）

西総合スポーツセンターの卓球するところ（小体育館）が2階までの吹き抜けになっていますね。ああいうイメージでしょうか。

（岡本会長）

聞いているとそういう感じだな。

（大川委員）

ちょっと狭いかな。ちょっと気持ち。

（横山委員）

こんなんじゃないですかね。

(青柳委員)

バドミントン場のほうが広い。

(岡本会長)

あそこはちょっと狭い。

(事務局：市川地域課長)

中体育館のほうは？

(大川委員)

中体育館だと、結構あれは広いな。今度は広いなという。だけど、どのぐらい、造っていただけるならそれはそれなりなんですけど、予算とかいろいろ考えていくと。でも、卓球場だとちょっと狭いですね。

(岡本会長)

狭くて駄目ですわ。中体育館、あれは 150 かそれくらいだね。

(青柳委員)

そういう感じか。

(横山委員)

私のイメージはもうちょっと広くてもいいかなという感じです。小学校の体育館の半分までいかないですよ。あれだと小学校の体育館の3分の1みたいなイメージですよ。

(青柳委員)

小学校の体育館の半分ぐらいの広さがあつたら使いやすい。

(渡辺委員)

使いやすいと思う、すごく。

(事務局：小林地域課長補佐)

大体小学校の体育館は、1,000 平米から 1,200～1,300 ぐらいまでですかね。

(大川委員)

ということは、やっぱりここの軽運動場と同じぐらいですよ。633 ですよんね。

(渡辺委員)

あのぐらいがちょうどいいという気はしますね。

(大川委員)

あの大きさなんですよ、大体ね。

(事務局：市川地域課長)

スポーツが限定されますよ。例えばバレーとかになれば、天井が。

(青柳委員)

高さが要るわけだね。

(事務局：市川地域課長)

例えば卓球とか、軽スポーツ的なもので、なおかつ1階で済むようであればいいかもしれないが、バスケットになれば、ゴールがとかいろいろとあって。皆さんが言ったような卓球をちょっとやるんだというぐらいであれば、できるかもしれないけれども、そこはどのようなふうを考えるか。

(岡本会長)

私のイメージの集会所というのは体育館じゃないんですよ。集まって会議したり、講演会を聞いたり、学生が来て発表会したり、こういったのがないと思うので、体育館は全く別なんです。それがないから、黒埼に行かなければ駄目だ、大学に行かなければ駄目だ。大学生も町へ下りてこないということなんです。一番困るのは集会所がないんです。議論をする、こうやって50～60人、1年に1遍、異業種の46かな、内野にNPOから各団体全部集まってもらうという会議をしている。私ども入れると50人くらいになるんですが一堂に会して会議しようとするとなんていいます。

(渡辺委員)

天井が体育館ぐらい高い必要もないですよ。それだともう使い勝手も悪いような気がする。

(大川委員)

でも、それじゃ狭いですよね。

(岡本会長)

体育施設というと全く別なイメージになってくると思います。柔道場がそこにあるんだけど、狭くてどうもならんところでも練習をやっている。あれも欲しいとなると、やっぱり体育施設というのは、今、西川にできている総合体育館みたいな、ああいうのがあればいいんだと思いますけどね。ここはまず集会所。

(青柳委員)

すいません、誤解があるみたいなので、あれですけど、僕は体育施設が欲しいんじゃなくて、集会所として体育館が適当だという。だから高さも今の体育館よりも低いだろうし、広さも体育館より狭いだろうし。ただ、いろんなものに使える集会所、ホールとして体育館の造りが適当だと申し上げているので、体育施設は全く言ってないです。バスケットができるとか、バレーができないとか、そういう問題は全然別です。

(渡辺委員)

それは結局後付けの話ですよ。

(青柳委員)

体育館が建物として適当ということです。

(横山委員)

クロスパルの交流ホールってあるじゃないですか。板間が2つつなげられる。あそこは天井が低いけど、フラットで、何にでも使えそうなのもいいだろうなど。

(渡辺委員)

僕のイメージはそこです。体育館のように天井が高い必要は全然ない。

(横山委員)

皆さんのおっしゃる体育館というのもよくわかって、あまりごてごてしてなくて、シンプルで、ステージといったら段があって、いろんなことに使い勝手がいいかなと。

先ほどからちょっと話が出ている新大について、私、新大の「うちのDEアート」をやっている美術科と一緒にやっている音楽出身なんです。「うちのDEアート」とか、今、黒埼に音楽が行ってますけど、そのスタートした辺りの年代なんです。2000年初めぐらい。最初は内野町へということだったんですけど、やっぱり場所がないとか、ちょっと町の人が閉鎖的だったというのがあって、1回ふっと引いて違うところに行ったんですけど、それを始めたときに、立派な音楽ホールがあれば行くかといったら、そういうものでもなくて、今のホールの話だと、フラットでいろんなものに使えるような機能があれば、大学生も来るかもしれないというか。黒埼に行ったのは、やっぱり内野に場所がなかったとか、うまくできなかった。後のほうは、何年か積み上げていって、内野の人たちも、「ああ、いいね。『うちのDEアート』、大学生がやっているんだね」みたいになって、交流ができて続いているんですけど。音楽の場合で言うと、最初はトータル・エクスペリエンスといって、地域とかいろんなところと交流しようと、まずニューヨークの実習から始まって、次、内野でやろうとなったんですけど、うまくいかなかったんですね。それを企画する研究室にいたんですけど、そういう視点も踏まえて、自分がその出身で、大学生だったときのこと、今の現状とかを聞いたり見たりしていると、素晴らしいホールはなくてもいいかな。それよりはちょっと入れるような場所、スペースがあると、出ていきやすいのかなと思いました。

(岡本会長)

そうすると、クロスパルの交流広場というか、中体育館というか、軽体育館といったかな。

(事務局：市川地域課長)

交流ホール。仕切って使うところでしょう？ ダンスができる。鏡がある部屋で。

(岡本会長)

仕切って使うものね。あのイメージか。あれをもうちょっと広げたほうがいいな。

(横山委員)

もうちょっと広くてもいいと思って。

(大川委員)

高さがもうちょっと高いほうがいい。高さはちょっと足りなかったかな。

(元木委員)

もちろん体育館のような、そんな高さは全然要らないけど。

(横山委員)

そういう感じですよ。開放的で。

(元木委員)

下も冷たくなくて、あれだったらいいよね。

(岡本会長)

ちょっと狭いんだな、幅が。

(大川委員)

幅は狭いです。

(横山委員)

機能的にはこういう感じでいいのかな。シンプルで、箱があって。仕切りもできて。フラットにバーッと広くて。

(渡辺委員)

板間で。

(元木委員)

ちょっとあったかい感じがあるので、体育館の。

(横山委員)

会議もできる。

(元木委員)

講演会もでき、広げれば餅つきもできる。

(岡本会長)

こういう感じなんだろうな。

(元木委員)

ステージがあって、新大生が吹奏楽部で演奏会もできる。

(大川委員)

そうですね。ちょっとしたステージ。

(岡本会長)

西内野で楽団を編成しているんですよ。2チームあるんです。内野大学とかというチームと、それからもう1つ本格的にやっているんです。

50～60人集めて。これは場所があるからできるので、場所がなかったらああいうのも生まれないんですよ。それと内野小学校は、中学もそうだけれども、吹奏楽で全国的に有名なんですよ。その人たちが地元に残って、昔やった杵柄で全部持っているんですわ。昔取った杵柄でそういうのを形成すればいいなと思うんだけど、場所が全然なく、それもできないというのも一つあるんですよ。だから、そういったものを総合して、これからのまちづくりの中心というか、交流の場というイメージで集会所というか、それと災害にも強いし、会議にも使われるというものだね。それで、全部取っ払ったら、全体で200人ぐらい入れると。できれば、壁からステージというか。

(渡辺委員)

そうですね。ちょっとした台ができるという。

(岡本会長)

舞台に出るものもできるもの。

(横山委員)

あれもできるんじゃないですか。ステージも可動式で壁に入るような。

(事務局：市川地域課長)

黒埼南部公民館にあるようなもの。

(岡本会長)

黒埼南部みたいな感じなんだね。

(事務局：市川地域課長)

あれもステージを上げられます。今、言われたように。

(岡本会長)

黒埼南部はちょっと狭いんだね。

(事務局：市川地域課長)

あれのちょっと大きいものね。

(岡本会長)

あれのちょっと大きいものという感じだな、いろいろ意見を聞いていると。

(事務局：市川地域課長)

常時ステージになっていると使えませんからね、精いっぱい。

(渡辺委員)

いろいろなものに使えるのは、まずフラットであることが第一条件の気がします。

(岡本会長)

集会所というのはホールというか、イコール集会所というのは、そういうイメージですね、この検討委員会では。

(青柳委員)

初歩的な質問ですけど、可動式のものって停電になったときにたためるんですか。手動か何かで。

(事務局：市川地域課長)

駄目でしょうね。

(渡辺委員)

でも、予備電源があったりするんですか。

(青柳委員)

予備電源が駄目だった電力会社もあるわけだから。

(大川委員)

手動式ならいいということですよ。

(青柳委員)

手動でできるようにはなっているんですかね。

(岡本会長)

あれ、電動だったっけな、黒埼の。

(事務局：小林地域課長補佐)

確認しておきます。

(岡本会長)

舞台なんて停電になったって、そのまま使えるし、起こしたって使えるんだったら、大したことないですよ。

(事務局：市川地域課長)

椅子も、このぐらいの幅ですからね。あれが200で。

(横山委員)

フラットな場所ができるのであれば、そこに可動式の椅子が出てきてもいいわけだし。

(大川委員)

そうです。出てきてもいい。

(横山委員)

いいですよ。停電のときにも使えれば。

(渡辺委員)

イメージ的に台はいつも出てるじゃないですか。あれいつもしまっていればいいわけです。

(大川委員)

そうなんです。何かのそういう講演会のときだけ出していった。

(渡辺委員)

いつも出してるから。

(岡本会長)

出っぱなしだから何にも使えないんだとなるんですよ。

(大川委員)

なので、出るときは手動でもいいから出してくるというふうにして。

(元木委員)

主催者が出すとか。

(大川委員)

主催者が。普段はいつもしまってるけど、何かしたいときは。

(横山委員)

そっちのほうがいいですよ。いつも出ているより。

(岡本会長)

交流ホールのちょっと幅の広げたものという感じだね。

(事務局：市川地域課長)

これも例えば 200 でなくても、100 にして、周りは椅子を出して 100 でもいいわけですからね、それは。

(岡本会長)

それで、それも仕切られるところ。真ん中半分にして、全部仕切った場合に、使えるという。なかなか面倒なことで。

(事務局：小林地域課長補佐)

かなり天井が高いと、かなり大きな壁が今度。

(大川委員)

天井はそんなに高くなくていいですよ。

(渡辺委員)

可動式にするのは、絶対天井が高くないと無理です。段が上がっていくわけだから。

(岡本会長)

可動式なんて要らないね。並べるべきだ、それは。

(渡辺委員)

可動式にすると天井が高くないと無理なので。だから、みんなホールが高いと思いますけどね。

(事務局：市川地域課長)

あれは200だけれど、100にすればあれだけの高さは要らないかもしれない。

(渡辺委員)

それだったら、僕は何もないフラットのほうがいい。

(岡本会長)

何もない、こういうホールだ。

(事務局：市川地域課長)

椅子を並べるだけの。

(渡辺委員)

椅子を並べるほうが、使い勝手はいい気がします。

(事務局：小林地域課長補佐)

黒崎市民会館が、1階と2階を吹き抜けにした形の大きさですね。それで一番上まで行くと、2階の床と同じぐらいの高さです。

(渡辺委員)

1階と2階抜ける形になるんですよ。

(岡本会長)

という感じだな。クロスパルの交流ホールの。

(事務局：市川地域課長)

交流ホールの感じですね。

(岡本会長)

感じはね。

(事務局：小林地域課長補佐)

そこまで高さはなくても、交流ホールより広くて仕切られるような形がいいと、そういう感じでしょうか。

(渡辺委員)

そうですね。

(横山委員)

あと、1つ質問なんですけど、防災の観点から、先ほど元木さんからお話のあった、会長からもお話があった、国から新しく発表している防災のこういう施設とか災害拠点施設に、

あてはまる条件みたいのって基準が出ているんですか。例えばこれぐらいの広さでこんな条件が要るとか。

(元木委員)

堅牢な建物とか、出てました。でも、すごいアバウトな感じで。

(岡本会長)

神戸で見て来たんだけど、もう防災センターはきちっとした7～8階建てのものがあって、市民の10分の1はそこへ集めると。それから、地域に1つずつ小さいのを造っているんですよ。それから比較したら新潟市はゼロなんですよ、防災施設。それで今、防災センターを造りなさいという議論が起きているんだよね。議会でごちゃごちゃ出てきてるでしょ。これからだと思うんですよ。

神戸は、片方は海で片方は山なんです。あれから見ると新潟はフラットだから、なお、あのくらいの地震が来た場合、大きいわけです。内野はおかげさまで砂丘地があるもんだから、防災センター造れなんて、砂丘地にいかに走らせるかなんですよ。建物は地震が来ればつぶれるかもしれないし、かたがるかもしれない、とにかくこの砂丘地にどうやって地域の人を誘導するかなんですよ。それで、私は駅を造ったときに、それも地震が来ると大変なんだけど、北側スロープというものを付けて、内野の駅は真ん中なんです。従って、地震に、マグニチュード7か8ぐらいに対応し得るものを付けてくれよと。そうすると、みんなそこから山へ行かれるんです。もう新道は駄目だから、踏切のところは。行けないんだから。それから、私のところでは、五十嵐跨線橋まで行くのが大変なので、一番いいのは駅だよ。内野の町の真ん中だから、そこからすぐ山へ走れる態勢をどうつくるかだと、私は思うんです。だから、一番町の昔の伊藤酒屋さんの辺りにももう1本、すぐ山へ走られるという、それが防災のね、この辺の基本だと思うね。内野の町で大きいのは、第四銀行と信組。

(渡辺委員)

両方銀行だから、防災拠点として無理なんですね。

(岡本会長)

眺めてみると、その2つしか見えないんですよ。銀行だから、鍵かけてるから絶対無理なんです。それで、山へ町民をどう誘導するかという感じなんですよ。

(渡辺委員)

それに代わるような高い建物ができれば、そこがある程度まちなかの防災機能は持つという話ですよ。

(岡本会長)

それで今、これから私どもが検討する集会所は4階建てぐらいにして。

(大川委員)

4階じゃ足りないかもしれない。微妙だよ、4階だと。

(岡本会長)

そこで、町のお年寄り、そこ（砂丘）まで行ってられないから、そこへ全部…。

(元木委員)

うん。全然違うと思いますよ。砂丘がね。

(渡辺委員)

上へ上がるのはなかなか大変でしょう。

(大川委員)

お年寄りは大変ですよ、砂丘上がるのは。

(元木委員)

逃げろって言われても。

(大川委員)

若い人はいいけど、なのでやっぱり。

(横山委員)

高いか、何とかというと、防災の話が出たときに、イメージで何かあたつときに小学校か中学校に避難みたいな。広さはとにかく小学校と中学校の体育館あるから、さらに新しい施設、防災を考えるなら、何をそういう小学校の体育館と変えなければいけないのかなと。附加してこれから新しい施設にする場合に、考えないといけないのかなと。

(事務局：市川地域課長)

基準はないと思いますよ。

(横山委員)

専門家の意見が聞きたい。

(事務局：市川地域課長)

ないかな。

(事務局：小林地域課長補佐)

他の都市ではあるかもしれませんが。

(元木委員)

ちょっと調べてきたのが、災害対策本部ができるだけのスペース。何をするにも、やっぱりスペースが要るんですよね。あと救援隊が来るから、その救援隊の集まる場所。それから、災害医療、お医者さん、そこで医療をする。あと、物資の分配、供給の拠点、あと地域住民の避難。要するに全部やっぱり場所が必要なので。

(岡本会長)

新潟市で今考えているのは、西新潟市民会館、それから新潟大学。この辺は新潟大学なんですよ。今、対策本部をつくって、避難指示が出た場合、この辺でどこへ持っていくかという、新潟大学なんだと。新潟市は今盛んに作っています。それでどうやって運営していくかまで全部、西区の中で担当が作って、資料は持ってこなかった。資料もらったんだけど、何で内野小学校でないんだろう、何で内野中学校でないんだろうと思ったら、この辺は災害対策本部というのは新潟大学の中へ行って、避難もそこへ全部連れていくと。こういうやり方みたいだ。物資から全部そこに持っていく。

(元木委員)

情報も全部ですか。

(岡本会長)

情報も全部、というのを今作ってる。この前、フォーラムがあって聞いてきたんだけど。今、ほやほやのものをこんな感じで捉えていますというもの。この地域においては新潟大学を、物資から、災害対策本部から、情報の発信から、それから各地域にどう指示するというものも全部、区役所でやっていますよ。

(元木委員)

じゃあ、私たちがつくる施設に必要なのは、もう本当に波が来たと言って、一次避難のことですよね、単純にね。

(岡本会長)

一次避難は小学校も入っているし、中学校も入っているし。

(元木委員)

けど、この内野地域の人たちにしてみれば、より近いところだということ。

(岡本会長)

そういうことです。それが今、県が発表したそれを受けて、防災の避難の在り方を今盛んにやっています。そのうちに明らかになると思うけれども。

(渡辺委員)

それ、やられるのであれば、3日間備蓄があれば済むということですよ。

(岡本会長)

そこに段ボールのベッドまで持ってきて。これに寝てみたけれども、板間に寝るよりもすぐ良くて。それから、個人の仕切りも全部立てると。これくらいの高さあるから、側から見えないというのも全部実験してやりましたんです。

それはこっちへ置いて、集会所の大体方向づけというのは、クロスパルの交流ホールの少

しグレードのいいもの、もうちょっと多機能ができるというような感覚で進むということ。

(事務局：市川地域課長)

交流ホールをもうちょっと良くしたぐらいな感じ。

(岡本会長)

という感じだね、皆さんの意見聞いていると。ボタン1つでグーッといくみたいなものだと、使い勝手が限定的になってしまうという感じだな、議論の流れでは。それよりももう少し何でも使えろと。ダンスでも、お茶でも、会議でも、発表会にも使われる。それから災害のときに、そこへ物資、あるいは連絡本部もできるという、そういう機能を持ったものだと。

(事務局：市川地域課長)

可動のじゃなくて、椅子を並べるぐらいでいいようなものでしょうか。

(岡本会長)

そういう感じだね。

(渡辺委員)

広さを広げればいような気はしますけどね。

(岡本会長)

ちょっと、交流センターって狭かったから。

(大川委員)

幅がないんですね。

(岡本会長)

これより狭かったろう？

(渡辺委員)

狭いですね。

(岡本会長)

この柱でこれぐらいの、ちょっと余計だった、そんな感じだね。それで、これから2つ目に入りますけれども、そこにどう入れよう。老人ホームの個室みたいものを付けるか、親子の居場所を付けていくとか、調理室を付けるとか、そういうようなものを付加していくんだらうという。その機能を議論して、そして、大体出そろったところに、今度、西出張所をそこに合併したり、保健センターを合併したりすると、この建物の全容が決まってくるから、それを今度はポンチ絵かなんか描いてもらって、提示してもらって、また議論していくという感じになっていくんだらう。じゃあ、この一番上はそんな感じでポンチ絵描いてもらって、またその絵見たら。

(渡辺委員)

そうですね。また…。

(岡本会長)

これからまた、このところこうしたほうがいいのか、これも少し広がるとか、天井はいくらぐらいなんだとか、いろんな議論が出てくると思うので、そのときに議論させてもらいたいと思うんだけど。

それからホール以外の機能、さっきから出ていた公民館機能はここにもあるんだから、全く同じというわけで、それ以外の機能をどんなものをそこに付加していくか。

(渡辺委員)

でも、会長、西地区公民館はそのままそのとおりで使うんですかね。

(岡本会長)

恐らくそうなる。

(渡辺委員)

じゃあ、調理室もありますし。

(岡本会長)

今のところ。

(渡辺委員)

今のところそのまま使うというイメージで僕らは考えていいんでしょうかね。

(岡本会長)

という考えでいいね。あの公民館は耐震補強をやってそのまま使うと。

(事務局：市川地域課長)

そのまま。はい。

(渡辺委員)

じゃあ、調理室も要らないし、工作室もそんなに考えないでいいという観点で考えていいんでしょうかね。

(岡本会長)

そのところどうするか。

(大川委員)

でも、図書館に勉強するところがないので。

(渡辺委員)

そうですね。それをどこにつくるかというのがありますよね。

(大川委員)

でも図書館のところにあったほうがやっぱり。

(渡辺委員)

そうですね。僕も子どもたちかわいそうだなと思いながら見ている。

(岡本会長)

だから、あそこ、この検討委員会で、例えば今度集会所ができるから、公民館の集会所は、図書館の学習室かなんかで使うという方法論も出てくるわけですよ。リニューアルしてもらおう。ですから、とにかく図書館なんて図書室なんですよ、内野は。それで見ていると、学習室が玄関の前で、自動ドアが開くと、そんなところじゃかわいそうなんだよ。そして、3人か5人しかいられないでしょ。本を見たって、どこのじいちゃんとかばあちゃんとかくっついたみたいにしか見られないような状態なんです。だから、学習室を…。

(渡辺委員)

でも、図書館と併設してあったほうが、いろんな意味でね。上と下で分かれて。

(大川委員)

分かれなくて、そこ。

(渡辺委員)

という気はするんですね。だから、あのまま使うんだったら、自習室とか、学習室とか。

(岡本会長)

それで、今、集会所をイメージできたんです。集会所でいろんな講習会したり、生涯学習の一環としてやると、そうすると、どうしても調理室は必要になってくるのではないかと。あるいは会議室も、打ち合わせするために、仕切りもできるけども、それと違った会議室も必要になってくるのではないかと。あるいは、親子の居場所も今ほとんどないから、例えば4階建てにしてそこにつくるとか、というようなものをここで議論して、大体どんな機能を持ったものかという議論をしてもらいたいです。

(大川委員)

保健センターのところに、子どもたちが遊べるのが一緒にあったほうがいいと思うんです。

(横山委員)

この間の東区プラザみたいな。

(大川委員)

そう。東区プラザみたいに保健センターがあって、子どもたちがダダダダッて走れるような、保育室みたいな、あんな感じがあると。

(岡本会長)

保健センターというのは基本的には1階なんですか。

(事務局：小林地域課長補佐)

2階のところもあります。

(事務局：市川地域課長)

東区プラザは2階です。

(渡辺委員)

赤ちゃんのいるお母さん方からすると、1階につくるのがいいのか、2階につくるのがいいのか、どう思いますか。

(横山委員)

階段以外の機能、エレベーターがあれば。

(渡辺委員)

どちらでも？

(横山委員)

はい。

(渡辺委員)

じゃあ、別にそれは1階につくる必要はなくなるということですよ。

(横山委員)

階段だけだとベビーカーが。

(大川委員)

そうですね。何かあったときに、子どもたちを上をやらなきゃ。下は心配なんです。ちっちゃい子なんか特に上に、なるべくならそれも上にあつたほうが。何かあったとき。

(渡辺委員)

そうですね。じゃあ、別に一番下につくる必要はゼロなんじゃないかな。

(大川委員)

一番下じゃないほうが私はいいと思います。人数が少ないとき、小さい子を連れて上がるのは大変なことなので。

(渡辺委員)

そうですね。

(岡本会長)

今の公民館で、ものすごく稼働率あるんだけど、一番欲しいのは何ですか。公民館活動をやっていないからわからないんだけど、何なんだろう。

(渡辺委員)

すごく平たく言えばホールだと思います。いつも埋まっています。あそこはいつも埋まっているイメージがあるんです。借りに行っても借りれないし。

(事務局：市川地域課長)

あれはどういう使い方をしているものなんですか。

(渡辺委員)

あそこで音楽をする学生もいるし、基本的に学生サークルががっつり入っている。

(横山委員)

卓球やっているときとかもあって。「卓球？」と思って。卓球もありますよ。

(岡本会長)

だから、そういう希望のあるものを、この集会所の中につくりたいということなんですよ。

(渡辺委員)

そうですね。

(大川委員)

それこそヨガとか、マット敷いて、ヨガなんかとかっていうのも。

(渡辺委員)

3 B体操とかもしているかもしれませんね。

(岡本会長)

そういうものを総合して、集会所の中にも。今言った、満杯でしょう、毎日のように。だから、そういったものを今回の新たな中につくりたい。そうすると、あそこが空くから、空いたものを、またリニューアルして使ってもらおうということだと思っただけです。

(横山委員)

公民館は、補強して使うということだったんですが、補強した際に一緒にリフォームはできるんですか。

(事務局：小林地域課長補佐)

30年以上経過しますので、エレベーターは取り替えの時期が来ていますし、施設もかなり古いので、当然リニューアルは必要だと思います。

(渡辺委員)

そのときに、エレベーターの位置も変更することはできるんですか。

(事務局：小林地域課長補佐)

それはちょっと難しい。

(事務局：市川地域課長)

何千万だろうね。

(渡辺委員)

図書館を1階、2階に分けて、という考え方もできるということですよ。

(横山委員)

できますか。私も今それを。

(事務局：小林地域課長補佐)

図書館ですと、書架に本がいっぱい載り、かなり荷重がかかってきますから、それなりの補強が必要だと思います。

(岡本会長)

今、寺尾にある分館の図書館と公民館をどうやってリニューアルしていくか、会議をやっているんです。私も言っているのだが、西区の図書館の中心を寺尾に持っていきたいと。5万冊か6万冊にしたいと。本来ならば図書館を静かな一番上に上げて、2階と3階をホールにして、音楽やなんかできるようにしたいんだけど、荷重の問題で上に上がらないんですよ。ものすごく本が重くて、リニューアルするのにものすごい金が掛かるんです。新しく造るまでは掛からないけれども、補強するのに、そんなのだったら新しいもの造ったほうがいいじゃないかというくらい。また、ここと同じで、寺尾もエレベーターが駄目なんですよ。エレベーターを上げてくれて、3,000万かそこら掛かるんですよ。それでも、その方向で今行ってますけどね。

そうすると、図書館と公民館を一緒にすると、今度は駐車場が足りないという議論になってきたんですよ。今の駐車場も入り口は2つ、坂で、またあそこの寺尾線がものすごく混んでいて出るに出られないんです。入るときも大変だし。という議論があって、図書館と公民館の議論というのはすごく面倒なものだわ。だから、内野は寿命が来るまでそっとしておいて。それで寺尾は、10年後に新しいのを造ると言っているんですよ。リニューアルしても10年ぐらいしかもたないと。だから、新しいものを造ると。そしたら、今回はこの程度でというのが今、議論の中心になっているんです。

ただし、西区は寺尾を中心図書館にしたいと。公民館もあそこを中心にしたいという意向なんです。だから、内野は今回、手を付けないで補強だけで、もう10年もすると限界だから、新築というようにしたほうがいいと感じます。

その前に内野は、新潟大学が素晴らしい図書館を造っているんですよ。そこを全部開放するって言うんだよ、市民に。駐車場もあるし、という話になると、この図書館の存在価値も議論になってくると思うんです。まだ出来上がらないね。

(事務局：小林地域課長補佐)

今年度中にはできる。

(渡辺委員)

商工会のほうにも、喫茶をつくるから入りませんかというのが来ました。

(大川委員)

多分入りにくいんだよね。大学の構内って。多分それで入らないから、そういうのを造って、もうちょっと…。前から図書館って使用可能だったんですよ、一般の人も。

(渡辺委員)

わかっているけどわからない感じという感じなんですよ。

(大川委員)

そうね。大学って入りにくいみたい。治外法権みたいになって。

(岡本会長)

今、自由に入っているのは、大学南の町内の人たちだけだな。

(大川委員)

そうですね。

(岡本会長)

行ったり来たりして、がちり、災害も共同でやったり、地域連携をきっちりやっている大学南の人たちはよく行っている。炊き出しなんかして、地域で真剣にやってくれているんです。そういうものが内野の町につながらない。だから、この集会所を中心に、もっと近くなるような働きが必要なんだろうという感じがします。

ということで、大ホールは、クロスパルの交流センターみたいなものになったと。そこへどういうものをいれていくか。

(青柳委員)

強い言い方になりますけど、やっぱり命に近いほうから優先して、張り付けていきたいと思うんです。というのは、例が悪いかわからないんですけど、さっきの「わいわいひろば」の赤ちゃんをお母さんが見ている、それと、お琴のサークルが練習するのと、どっちが命に近いかといったら、僕は育児のほうが近いと思うんです。そういう言い方のもとで、具体的な話をしなきゃいけないかもわからないですけど、そういうふうなことで落とし込んでいくほうがいいかと思います。

それと、もう1つ、小ホール1・2とかあると、使いやすいかもわからないですね。

(岡本会長)

それと市民ホールというか、見附のあれ良かったでしょう。市民が自由に入ってきて、休むことができて。

(渡辺委員)

交流広場みたいなもの。

(岡本会長)

交流広場。ああいうのが1階に少しほしい。今、寺尾にも図書館と公民館は1階にぜひそれをつくってくれということで、半分市民の交流みたいところ、自由に行って、コーヒー持って行って飲んだり、お茶持って行って飲んだり。

(渡辺委員)

敷居が高くしないほうがいいという気はします。

(岡本会長)

フラットにね。敷居高くしないほうがいいですよ。

(横山委員)

見附もそうなんですけど、皆さん、万代市民会館って利用されていますか。あそこは、黒埼と同じでいろんな部屋があって、私が特徴的だと思うのは、廊下がすごく広くて、いっぱいテーブルとかが置いてあって、机もあって学習したり、「ここは内輪のミーティングできるスペースです」と書いてあるんですね。ああいうお茶を飲めるような、見附もそうですし、私のイメージにある万代のテーブルもそうなんですけど、そういう場所も設けることで、他の部屋の稼働率が上がるかな。例えば、ちょっとした打ち合わせだけ部屋を取っていた方が、そこに移行してくれれば、他が使えるようになる、いい動きになるかなということで、そういうスペースがぼつぼつあればいいと思いました。

(岡本会長)

大体、意向が決まっているんだと思うね、どういう機能を持たせるかというのは。余計あれば余計あるほどいいのでね。例えば内野の親子の広場をやってもらっているんだけど、隣の畳の部屋で、20畳ぐらいあるかね、そこに二十何組も来る。それで、病気にならんかと思って心配している。20人赤ちゃんが来ると、そこに親がついてくる。そこにスタッフが5～6人いて、保健師もいて、まあ、熱気があるんですよ。それでもっとやってくれという。公民館でもやっているんですよ、内野の公民館で。来年から2カ所でやるかみたいな話で、そこにあるひまわりクラブが小学校へ移るから、そこが空いたら今度は月2回ぐらい貸してもらったらみたいな話も今浮かんでいるんだけど、本当に病気にならないか不思議なぐらいなんです。だから、これは解体するんだけど、新しい集会所にそういった設備を、ぜひ作ってもらいたいという感じだね。

(大川委員)

やっぱりそれで保健センターとセットに。

(青柳委員)

いいですよ。

(事務局：市川地域課長)

それは皆さんの共通の願いなんですか。

(大川委員)

そうですね。

(渡辺委員)

大事だと思います。

(大川委員)

子どものところに保健センターがくっついていたほうが、相談するのも、何するにも。

(事務局：市川地域課長)

戻りますが、交流ホールに大勢人が入るとすると、100 から 200 ぐらいのものですか。

(岡本会長)

クロスパルの交流ホールのようなところに椅子が並んで150か200人ぐらい入れるという感じですね。

(事務局：市川地域課長)

あと、ステージみたいなものはいかがですか。

(岡本会長)

可動式のステージを。

(事務局：市川地域課長)

折りたたみで上げ下げできるみたいなものですね。

(岡本会長)

あまりに本格的にやると使い勝手が悪いところもあるんですよね。だったら、何でも使えるものが欲しいという感じですね。

(大川委員)

それから、なんか取って、何でもできるもの。

(事務局：市川地域課長)

調理室は不要でよろしかったでしょうか。

(青柳委員)

公民館にありますしね。

(横山委員)

今、200 という話だったんですけど、私、300 人ぐらいは入れたほうがいいんじゃないのかなと思ったのは、例えば中学校の体育館のイメージで、昔、1 学年 300 人が 3 学年いて、300 人ぐらい入れるのが、体育館 3 分の 1 ぐらいのイメージなんです。だから、300 弱ぐらいのイメージが欲しいなという意見です。

(事務局：小林地域課長補佐)

西コミュニティセンターのホールが 320。

(大川委員)

あの上の体育館っぽいところが 300？

(岡本会長)

320、全部椅子でするなんて集会ないだろ？この辺。内野の人たちが、最大限、どういう使い方をするかと。音楽の発表会なんかだったら、300 人ぐらい集まるかもしれないけれども、会議だとかをするとき、そのぐらい集まるかどうかなんだな。

(渡辺委員)

クロスパルの交流ホールって、2つに分かれると音漏れないんですかね。

(大川委員)

漏れます。隣でやってるのが聞こえます。

(渡辺委員)

そうですね。そうすると、300 の人が集まることあるのかないのかと言われると、会長の言うとおりの疑問は疑問なんですよ。100 ずつに分けて、150 ずつに分けて 2つの会議が同時進行できるというのであれば、魅力的だと思うんですけど、でも、音が漏れたりするのであれば、1回のコマに1つの組しか入らないという形になるんじゃないかという気はするんですね。

(青柳委員)

中学校とか、1,000 人中に入れたのは、小さい前ならえで 1,000 じゃない？

(横山委員)

なるほど。

(青柳委員)

今の何百は大きい前ならえでした分だと思うよ。

(岡本会長)

今、内野の中学って何人ぐらいなんかね。

(青柳委員)

600 人ぐらいですね。

(岡本会長)

600 人ぐらい。そこに、俺なんて、毎年卒業式と始業式行くんだけど、父兄もやっぱりそれぐらい出てくるな、今。

(青柳委員)

そうですね。二親来ますからね。

(岡本会長)

200人のところへ親は2人ずつ来るもんだから。すごい数になって、それ全部椅子並べてそこへ全部座るからね。

(青柳委員)

そうですね。

(岡本会長)

びっしりだろうな。

(青柳委員)

まあ、そうですね。

(岡本会長)

あれも1,000だからね。

(青柳委員)

それで約1,000ぐらい。

(岡本会長)

1000人ぐらいだな。300、大きいにこしたことはないんだけど、そういう集会在考えられるものはどういうものかということなんです。

(渡辺委員)

ただ、横山さんが言った通り、300入るようにして、通路を広く取るとのはいいことですね。そういうことができるのであれば、理想だとは思うんですね。

(岡本会長)

250ぐらいにしておくか。

(大川委員)

250だと、ステージが付くと200人ぐらいということですかね。

(岡本会長)

ステージが付いて、200人ぐらいか。

それでは、事務局からホール以外の機能について説明していただけますか。

(事務局：小林地域課長補佐)

これは、今ほどのホールの検討のため作ったもので、ある程度方向が決まったので、参考になるかどうかわかりませんが、大まかなニーズを把握するために作った資料です。ただ、ジャンル別に公式のデータがないので、聞き取りなどにより、こちらで作った資料なので、大まかな状況がわかればいかと考えていただきたいと思います。

黒崎市民会館、西新潟市民会館については、同じ可動式の階段形式ということですが、主な利用状況としては、両方とも音楽関係が中心です。

その他、黒崎市民会館ではピアノで使われる方が非常に多い。あとは、企業その他が主なものとなっています。利用規模は満杯はあまりないということで、非常に漠然とした形ですが、そんな状況です。駐車台数は154台ありますが、近くに施設があり、それも満杯のときは使えるということです。

西新潟市民会館についても、音楽が55%、その他スポーツ・演劇で使われています。利用規模は、本番は平均で定員の半分強ぐらいです。駐車場台数は、先ほどのとおりです。

西コミュニティセンターのホールにつきましては、体育館形式で320人で、これは9割方、スポーツ関連で、卓球がほとんどです。あとは音楽、ピアノとかカラオケ関連、その他集会です。これも満員になることはないんですが、卓球として使う場合は、全部全面使うとか、ものとしては使う。人で見ると満員になることはほとんどないということです。

生涯学習センターの映像ホールは固定式の階段形式で150人、中心部なのでいろんな企業とか公共の集会関連に使われていまして45%ぐらい。その他、合唱とか楽器練習です。ただ、生涯学習センターの事情がありまして、音楽ができる場所は音楽室とホールしかないということで、音楽室がふさがっていると、ここで楽器練習をしたりするので、練習に使われている数が非常に多い。本番はそう多くはないということで、三十何回ぐらいでしょうか。あと、スポーツ軽運動で使われるということで、平均、定員の半分ぐらい、これも本番ではそのぐらいということです。あと、生涯学習センターについては、非常に駐車台数が少ないんですが、周りに有料駐車場がいっぱいあるということで、それを使っている状態です。

大まかにそんな内容でございます。

(岡本会長)

ホールに付属するとか、独立した会議室も必要であると思うし、打ち合わせ室とか、私は調理室もさまざまな煮炊きをするということがでてくるんじゃないかを感じるんです。それも検討が必要だと思いますね。公民館にあるからいいじゃないかと言うけれども、こっちは独立したのでいろんなことをやろうとすると、ガス、水道とか、煮炊きをするものが。餅つき大会なんて小学校が使えないんです。内野の小学校。それで、専門学校で煮て、西出張所に置いてもらって、それから持っていっているような形なんです。公民館はやっぱり駄目なんです。あんまり大きくなくても3台か4台、調理をするところは必要がある感じがします。

それから、畳の部屋も1つ、2つあったほうがいい。1階は市民センター的なものを、軽く来て、商工会の若い人たちが集まって会議やって相談しようっていうような、人が見てる、

ここに椅子を置いてというような、市民センター的なものも必要だと思います。

ただ、それと行政施設と合併させると、なかなか使い勝手等、土日や休みのときについては、どう区分けするかというので、なかなか面倒だと思います。

ということで、その他、意見があったら。「これからの進め方について」について少し。

(事務局：小林地域課長補佐)

これからの進め方ですけれども、まだホール以外の機能については、もう1回ぐらいやったほうがいいのではと思いますが。

(岡本会長)

飲みに行きますか。

(事務局：市川地域課長)

ざっくばらんに、飲みながら、コミュニケーション取れたら。

(岡本会長)

ざっくばらんに飲みながら飲みニケーションやるとね、本音が出てくるから。

(事務局：市川地域課長)

そのときを踏まえてまた。

(岡本会長)

そうですね。

(事務局：小林地域課長補佐)

それでは、もう1回ということで、引き続きまた意見交換をさせていただきたいと思えます。次回はそういうふうな形で考えています。

それと、先ほど会長が言われましたけども、意見として出されたホールの内容とか機能等を踏まえて、公共施設も合築した簡単な平面図、ポンチ絵と言っていますけれども、そういうものをいくつか作って、それをもとにどんなところにどういうのがいいとかいった話を皆さんから頂戴したいと思っております。

併せて、集会施設の最も重視するもの、コンセプト、どういう機能が一番必要か、ふさわしいかとか、そういった辺りも議論していただきたいなど。それが今度内部でこの集会施設をまとめていく中で一番基本になってきますので、お願いしたいと思います。そんなことで、今年度、次回も含めまして2回程度開催を考えております。当初の予定数より増えまして、申し訳ありませんが、そのぐらいでまとめていきたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。

(岡本会長)

はい、わかりました。次回、6回目の日程はどうですか。

(事務局：西区地域課職員)

では、先回の視察のときもお話しさせていただきましたけれども、年明け、1月21日に、この検討委員会での懇親会の場を持たせていただきたいと思います。月曜日、週の始めで恐縮ですが、7時を予定させていただきまして、自費参加という形になりますが、追ってご案内させていただきたいと思います。年明けの最初の会議につきましては、その翌週の1月28日月曜日に夜の7時からこの会場でさせていただければと考えております。こちらのほうも併せまして、ご案内させていただきたいと思います。

(岡本会長)

では、次回21日は懇親会の新年会と申しますか、飲みニケーションやればいろんな意見が出ると思いますので、それから、28日がここでまた会議するということで、お願いしたいと思います。

今日はどうも活発な議論ありがとうございました。これで第5回を終わりたいと思います。ありがとうございました。

(一同)

ありがとうございました。